

(様式第10)

富大病総第147号
平成26年10月3日

東海北陸厚生局長 殿

国立大学法人富山大学附属病院長
塚田 一博

国立大学法人富山大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成25年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒930-0194 富山市杉谷2630
氏 名	国立大学法人富山大学附属病院

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

国立大学法人富山大学附属病院

3 所在の場所

〒 930 - 0194	電話(076) 434- 2281
富山市杉谷2630	

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> ① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/> ② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 呼吸器内科 2 消化器内科 3 循環器内科 4 神経内科 5 血液内科 6 内分泌内科 7 代謝内科	
8 感染症内科 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科名等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名等	
1 呼吸器外科 2 消化器外科 3 乳腺外科 4 心臓血管外科 5 内分泌外科 6 小児外科 7	
8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他標榜していることが求められる診療科名

(1) 精神科 (2) 小児科 (3) 整形外科 (4) 脳神経外科 (5) 皮膚科 (6) 泌尿器科 7 産婦人科
(8) 産科 (9) 婦人科 (10) 眼科 (11) 耳鼻咽喉科 (12) 放射線科 13 放射線診断科
14 放射線治療科 (15) 麻酔科 (16) 救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名等	
1 歯科口腔外科 2 3 4 5 6 7	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 漢方内科 2 病理診断科 3 4 5 6 7
8 9 10 11 12 13 14
15 16 17 18 19 20 21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
43床	0床	0床	0床	569床	612床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年 7月 1日現在)

職 種	常 勤	非 常 勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	285 人	36 人	304.2 人	看護補助者	28 人	診療エックス線技師	0 人
歯科医師	9 人	0 人	9.0 人	理学療法士	5 人	臨床検査技師	41 人
薬 剤 師	34 人	0 人	34.0 人	作業療法士	4 人	衛生検査技師	0 人
保 健 師	0 人	0 人	0.0 人	視能訓練士	5 人	臨 床 検 査 師	0 人
助 産 師	34 人	0 人	34.0 人	義肢装具士	0 人	その他	0 人
看 護 師	576 人	14 人	586.9 人	臨床工学技士	12 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
准看護師	0 人	0 人	0.0 人	栄 養 士	2 人	医療社会事業従事者	5 人
歯科衛生士	2 人	0 人	2.0 人	歯科技工士	0 人	その他の技術員	44 人
管理栄養士	6 人	0 人	6.0 人	診療放射線技師	32 人	事務職員	104 人
						その他の職員	0 人

(注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。

(注) 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

(注) 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年 7月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	29 人	眼 科 専 門 医	6 人
外 科 専 門 医	25 人	耳鼻咽喉科専門医	7 人
精 神 科 専 門 医	6 人	放射線科専門医	8 人
小 児 科 専 門 医	19 人	脳神経外科専門医	9 人
皮 膚 科 専 門 医	5 人	整形外科専門医	13 人
泌尿器科専門医	10 人	麻 酔 科 専 門 医	12 人
産婦人科専門医	11 人	救 急 科 専 門 医	6 人
		合 計	166 人

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	476 人	9 人	485 人
1日当たり平均外来患者数	1,211 人	48 人	1,259 人
1日当たり平均調剤数			572 剤
必 要 医 師 数			120.1 人
必 要 歯 科 医 師 数			3.6 人
必 要 薬 剤 師 数			17.0 人
必 要 (准) 看 護 師 数			286.0 人

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

(注) 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

(注) 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

(注) 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(注) 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要	
集中治療室	367 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	21床
			人工呼吸装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台数	268 m ² 台	病床数 23床
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床面積 共用する室名	36 m ²	
化学検査室	432 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	臨床検査自動化システム、総合検査管理システムなど
細菌検査室	96 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	細菌検査システム、マイクロスキャンWalkAway 96Si7アージュ など
病理検査室	113 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	病理診断支援システム、自動免疫染色装置など
病理解剖室	78 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	感染症対策解剖台システム、強制排気切出し台など
研究室	7,463 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	倒立型リサーチ顕微鏡システム、デジタルマイクロスコープ など
講義室	358 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2室
図書室	2,702 m ²	鉄筋コンクリート	室数	1室
			収容定員	388人
			蔵書数	227,651冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

(注) 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年 4月 1日～平成26年 3月 31日	
紹介率	74.6 %	逆紹介率	41.2 %
算出 根拠	A：紹介患者の数		9,923人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		6,033人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		999人
	D：初診の患者の数		14,639人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	直線加速器定位放射線治療	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要			
<p>定位放射線照射とは病巣に対し多方向から放射線を集中させる照射である。脳定位、肺定位の放射線治療を実施している。</p>			
医療技術名	強度変調放射線治療 (IMRT)	取扱患者数	38 人
当該医療技術の概要			
<p>強度変調放射線治療とは腫瘍の形状に合わせた線量分布を形成でき、正常組織の被ばく線量をより低減できる放射線治療である。前立腺がん、頭頸部がん等で実施している。</p>			
医療技術名	高線量率密封小線源治療 (HDR-BT)	取扱患者数	17 人
当該医療技術の概要			
<p>密封されたイリジウム線源によりアプリケータを用いて組織内または腔内の体内から行う放射線治療である。前立腺がん、子宮頸がん等で実施している。</p>			
医療技術名	ナビゲーション用CT撮影	取扱患者数	263 人
当該医療技術の概要			
<p>脳神経外科領域にて腫瘍・血管位置や危険部位の認識をサポートする目的で行われ、整形外科分野では骨に対す器具位置の表示などに応用される。この基準となるデータをX線CT装置で撮影する。耳鼻咽喉科、口腔外科、美容外科へ適用が拡大している。</p>			
医療技術名	X線CT-Angio撮影	取扱患者数	581 人
当該医療技術の概要			
<p>造影剤を急速静注したのち、動脈内の造影剤濃度が最も高くなるタイミング(動脈相)でCT撮影し、画像処理することで動脈が明確に抽出され、3D表示も可能となります。脳脈瘤、腹部大動脈瘤の診断に利用されている。</p>			
医療技術名	CTガイド下針生検	取扱患者数	3 人
当該医療技術の概要			
<p>特に肺などで、呼吸で動く腫瘍に正確に針を刺すために、リアルタイムで腫瘍を含む断面の画像を表示させながら針を皮膚から腫瘍に進めることができることにより、安全に生検を行うことができる。</p>			
医療技術名	冠動脈CT撮影	取扱患者数	254 人
当該医療技術の概要			
<p>冠動脈の状態を調べるために、造影剤を急速静注したのち、心電図と同期して心臓全体の撮影を行う。専用の3Dワークステーションを用いて、冠動脈の解析を行える。心臓カテーテル検査より安全、簡便に検査可能である。</p>			
医療技術名	心房(室)細動のカテーテル・アブレーション	取扱患者数	87 人
当該医療技術の概要			
<p>抗不整脈薬が無効な心房細動の根治術として高周波エネルギーを用いたアブレーションを行っている。</p>			
医療技術名	慢性血栓塞栓性肺高血圧に対するカテーテル治療	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要			
<p>慢性血栓塞栓性肺高血圧は、薬物治療に抵抗性であり、閉塞した肺動脈をバルーンで拡張することにより肺高血圧の軽減を図る。</p>			
医療技術名	頸部頸動脈血管形成・ステント術：CAS	取扱患者数	17 人
当該医療技術の概要			
<p>脳血管内治療による頸動脈狭窄症に対する頸動脈形成術である。</p>			
医療技術名	ステント併用脳動脈瘤塞栓術	取扱患者数	9 人
当該医療技術の概要			
<p>頸部の広い動脈瘤に対して頭蓋内用ステントを併用したコイル塞栓術。</p>			

医療技術名	脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻に対する脳血管内手術	取扱患者数	23 人
当該医療技術の概要			
脳動静脈奇形摘出術前に行う塞栓術や、硬膜動静脈瘻に対する経動脈的、あるいは静脈的塞栓術。			
医療技術名	悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節生検	取扱患者数	6 人
当該医療技術の概要			
放射性同位元素および色素を併用して、センチネルリンパ節生検を行っている。			
医療技術名	PET (ポジトロン断層法)	取扱患者数	1,343 人
当該医療技術の概要			
陽電子検出を利用したコンピューター断層撮影技術である。X線CTが主に組織の形態を観察するための検査法であるのに対して、生体の機能を観察することに特化した検査法である。腫瘍組織における糖代謝レベルの上昇を検出することにより癌の診断に利用する。			
医療技術名	乾燥羊膜を用いた難治性角膜疾患の治療	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要			
当院で独自に作成したヒト乾燥羊膜を用いた角膜穿孔、緑内障手術後に対し、効果的な治療をしている。			
医療技術名	未熟児網膜症に対する抗VEGF療法	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要			
未熟児網膜症に対して抗VEGF療法を眼内注射し、より効果的な治療を行う。			
医療技術名	角膜疾患、緑内障眼に対する前眼部OCT検査	取扱患者数	100 人
当該医療技術の概要			
角膜形状解析、緑内障眼の解析を前眼部OCTを用いて詳細に行う。			
医療技術名	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	取扱患者数	6 人
当該医療技術の概要			
多焦点眼内レンズを用いて白内障手術を行い良好な視力を得る。			
医療技術名	強度変調放射線療法	取扱患者数	16 人
当該医療技術の概要			
前立腺癌に対する体外照射。周辺臓器に対する線量を減らすことができ、合併症の低減につながる。			
医療技術名	顕微鏡下精索静脈瘤手術	取扱患者数	17 人
当該医療技術の概要			
顕微鏡を用いて、精索静脈瘤手術を行っている。動脈、リンパ管を温存することにより、手術成績の向上につながる。			
医療技術名	精子機能検査	取扱患者数	100 人
当該医療技術の概要			
精子運動能、精子受精能などを検査。			
医療技術名	顕微鏡下精巣内精子回収法	取扱患者数	7 人
当該医療技術の概要			
顕微鏡下に精巣内の精子を回収している。			
医療技術名	自家腎移植	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要			
摘出した腎（良性疾患）を形成して本人に移植している。			

医療技術名	H. pylori3次除菌治療	取扱患者数	50 人
当該医療技術の概要			
2013年2月からH. pylori胃炎が除菌治療対象となり、既存の1次および2次除菌治療の除菌失敗例が急増している。県内医療機関で除菌失敗例は、ほぼすべて第三内科で3次除菌がなされており、除菌失敗要因を考慮した個々の患者に適した3次除菌が必要であり、当科は先進的3次除菌を既に実施している。			
医療技術名	FDG-PETによる消化管間質腫瘍の耐性病変の早期発見	取扱患者数	40 人
当該医療技術の概要			
消化管間質腫瘍の治療のため、第三内科には北陸3県、新潟県、岐阜県、海外から患者が集中しており、分子標的治療の効果の早期判定、薬剤耐性病変の早期発見にFDG-PETが有用であることが海外報告から知られており、既に当科でも利用している。			
医療技術名	心不全・虚血性心疾患に対する和温療法	取扱患者数	38 人
当該医療技術の概要			
薬剤治療抵抗性の心不全や狭心症例に対して、全身の温熱療法（和温療法）により心機能改善・QOLや運動耐容能改善を図る。			
医療技術名	心臓MRI	取扱患者数	65 人
当該医療技術の概要			
シネMRIは現在最も正確な心機能と局所壁運動の診断法であり、遅延造影MRIは現在最も正確な心筋梗塞の画像診断法である。空間分解能が高いため右室梗塞や心内膜化梗塞も明瞭に診断できる。（冠動脈病変の非侵襲的診断法に関するガイドラインJCS2009）			
医療技術名	先天性心疾患のカテーテル治療	取扱患者数	50 人
当該医療技術の概要			
動脈管開存、肺動脈狭窄、大動脈狭窄のカテーテル治療の他、フォンタン術後患者の側副血管に対するコイル塞栓術を行っている。			
医療技術名	心筋緻密化障害を含む心筋症の遺伝子解析	取扱患者数	100 人
当該医療技術の概要			
全国から心筋症の遺伝子解析の依頼を受け、年間100例の解析を行っている。			

- (注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。
- (注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること（当該医療が先進医療の場合についても記入すること）。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	33 人	・膿疱性乾癬	2 人
・多発性硬化症	58 人	・広範脊柱管狭窄症	7 人
・重症筋無力症	39 人	・原発性胆汁性肝硬変	37 人
・全身性エリテマトーデス	144 人	・重症急性膵炎	3 人
・スモン	2 人	・特発性大腿骨頭壊死症	15 人
・再生不良性貧血	6 人	・混合性結合組織病	30 人
・サルコイドーシス	43 人	・原発性免疫不全症候群	9 人
・筋萎縮性側索硬化症	24 人	・特発性間質性肺炎	12 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	119 人	・網膜色素変性症	58 人
・特発性血小板減少性紫斑病	17 人	・プリオン病	1 人
・結節性動脈周囲炎	16 人	・肺動脈性肺高血圧症	9 人
・潰瘍性大腸炎	118 人	・神経線維腫症	17 人
・大動脈炎症候群	14 人	・亜急性硬化性全脳炎	0 人
・ビュルガー病	13 人	・バッド・キアリ (Budd-Chiari) 症候群	0 人
・天疱瘡	12 人	・慢性血栓性肺高血圧症	8 人
・脊髄小脳変性症	50 人	・ライソゾーム病	0 人
・クローン病	66 人	・副腎白質ジストロフィー	1 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1 人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0 人
・悪性関節リウマチ	21 人	・脊髄性筋萎縮症	4 人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	214 人	・球脊髄性筋萎縮症	2 人
・アミロイドーシス	5 人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	14 人
・後縦靭帯骨化症	47 人	・肥大型心筋症	4 人
・ハンチントン病	3 人	・拘束型心筋症	0 人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	40 人	・ミトコンドリア病	10 人
・ウェゲナー肉芽腫症	5 人	・リンパ管筋腫症(LAM)	0 人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	37 人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0 人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガ症候群)	25 人	・黄色靭帯骨化症	5 人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1 人	間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常 症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異 常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能 低下症)	44 人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 特定機能病院一般病棟 7対1入院基本料	・ データ提出加算 2
・ 特定機能病院精神病棟 13対1入院基本料	・ 特定集中治療室管理料 4
・ 臨床研修病院入院診療加算(基幹型) 医科	・ ハイケアユニット入院医療管理料 1
・ 臨床研修病院入院診療加算(単独型) 歯科	・ 総合周産期特定集中治療管理料
・ 救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算	・ 新生児治療回復室入院医療管理料
・ 超急性期脳卒中加算	・ 小児入院医療管理料 2
・ 妊産婦緊急搬送入院加算	・ 歯科外来診療環境体制加算
・ 診療録管理体制加算	・ 障害者歯科医療連携加算
・ 急性期看護補助体制加算(25対1, 5割未満), 夜間配置加算	・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料
・ 看護補助加算 2	・
・ 療養環境加算	・
・ 重症者等療養環境特別加算	・
・ 無菌治療室管理加算 1	・
・ 無菌治療室管理加算 2	・
・ 精神病棟入院時医学管理加算	・
・ 精神科身体合併症管理加算	・
・ がん診療連携拠点病院加算	・
・ 医療安全対策加算 1	・
・ 感染防止対策加算 1, (感染防止対策地域連携加算)	・
・ 患者サポート体制充実加算	・
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ ハイリスク妊娠管理加算	・
・ ハイリスク分娩管理加算	・
・ 退院調整加算	・
・ 救急搬送患者地域連携紹介加算	・
・ 救急搬送患者地域連携受入加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 高度難聴指導管理料	・ 長期継続頭蓋内脳波検査
・ 糖尿病合併症管理料	・ 脳磁図(神経磁気診断)
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 神経学的検査
・ がん患者カウンセリング料	・ 補聴器適合検査
・ 院内トリアージ実施料	・ ロービジョン検査判断料
・ 夜間休日救急搬送医学管理料	・ コンタクトレンズ検査料 I
・ 外来リハビリテーション診療料	・ 小児食物アレルギー負荷検査
・ 外来放射線照射診療料	・ 内服・点滴誘発試験
・ ニコチン依存症管理料	・ センチネルリンパ節生検
・ ハイリスク妊産婦共同管理料 (I)	・ 画像診断管理加算 1
・ がん治療連携計画策定料	・ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・ がん治療連携管理料	・ CT撮影及びMR I撮影
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ 冠動脈CT撮影加算
・ 薬剤管理指導料	・ 心臓MR I撮影加算
・ 医療機器安全管理料 1 (生命維持装置使用)	・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・ 医療機器安全管理料 2 (放射線治療計画策定)	・ 外来化学療法加算 1
・ 造血器腫瘍遺伝子検査(血液細胞核酸増幅同定検査)	・ 無菌製剤処理料
・ HPV核酸検出	・ 脳血管疾患等リハビリテーション料 (II)
・ 検体検査管理加算 (I)	・ 運動器リハビリテーション料 (I)
・ 検体検査管理加算 (IV)	・ 呼吸器リハビリテーション料 (I)
・ 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・ 認知療法・認知行動療法
・ 植込型心電図検査	・ 医療保護入院等診療料
・ 時間内歩行試験	・ 透析液水質確保加算
・ 胎児心エコー法	・ 一酸化窒素吸入療法
・ ヘッドアップティルト試験	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6 ・ (歯科点数表第2章第9部手術の通則4を含む)に掲げる手術
・ 皮下連続式グルコース測定	・ 脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・ 膀胱水圧拡張術
・ 網膜付着組織を含む硝子体切除術（眼内内視鏡を用いるもの）	・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・ 人工内耳植込術	・ 輸血管管理料Ⅰ
・ 乳がんセンチネルリンパ節加算Ⅰ及びⅡ	・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処理加算
・ 経皮的な中隔心筋焼灼術	・ 麻酔管理料（Ⅰ）
・ ペースメーカー移植術	・ 麻酔管理料（Ⅱ）
・ ペースメーカー交換術	・ 放射線治療専任加算
・ 植込型心電図記録計移植術	・ 外来放射線治療加算
・ 植込型心電図記録計摘出術	・ 画像誘導放射線治療加算（IGRT）
・ 両心室ペースメーカー移植術	・ 体外照射呼吸性移動対策加算
・ 両心室ペースメーカー交換術	・ 高エネルギー放射線治療
・ 植込型除細動器移植術	・ 強度変調放射線治療（IMRT）
・ 植込型除細動器交換術	・ 直線加速器による定位放射線治療
・ 両室ペーシング機能付き植込型徐細動器移植術	・ 定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・ 両室ペーシング機能付き植込型徐細動器交換術	・ 保険医療機関間の連携による病理診断
・ 大動脈バルーンパンピング法（IABP法）	・ 病理診断管理加算Ⅱ
・ 補助人工心臓	・ 歯科治療総合医療管理料
・ 経皮的な大動脈遮断術	・ 医療機器安全管理料（歯科）
・ ダメージコントロール手術	・ 歯周外科手術（歯周組織再生誘導手術）Ⅰ次
・ 腹腔鏡下肝切除術	・ 広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・ 生体部分肝移植術	・ クラウン・ブリッジ維持管理料
・ 腹腔鏡下腭体尾部腫瘍切除術	・
・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・
・ 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	・
・ 同種死体腎移植術	・
・ 生体腎移植術	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・該当なし。	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

- (注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
- (注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	臨床検査部門：1か月に2～4回程度開催 病理診断部門：1か月に9～12回程度開催
剖 検 の 状 況	剖検症例数 33 例 / 剖検率 17.5 %

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
心不全の心腎連関における自律神経機能の概日リズム異常に関する研究	井上 博	内科学(第二)	¥300,000	補 委 日本学術振興会
モデルマウスを用いたIgG4関連呼吸器疾患の基礎的研究	松井 祥子	保健管理センター	¥1,500,000	補 委 日本学術振興会
流早産・妊娠高血圧腎症病態解明に向けたTh17細胞/制御性T細胞の機能解析	伊藤 実香	産婦人科(エコチルユニットセンター)	¥1,300,000	補 委 日本学術振興会
新しい多能性幹細胞(Muse細胞)を用いた脳梗塞の再生治療の戦略的研究	黒田 敏	脳神経外科学	¥6,900,000	補 委 日本学術振興会
イタイイタイ病理組織中のカドミウム局在の可視化と周囲微小環境の病理学的解明	常山 幸一	病理診断学	¥2,200,000	補 委 日本学術振興会
向精神薬服用患者に対する安全な全身麻酔管理に関する基礎的研究	佐々木 利佳	麻酔科学	¥1,400,000	補 委 日本学術振興会
fMRIを用いた中枢神経における急性痛の発現機構の解明	竹村 佳記	麻酔科学	¥900,000	補 委 日本学術振興会
新規高感度迅速起因菌同定法とNF-κB病態解析法を統合した敗血症検査システム構築	北島 勲	臨床分子病態検査学	¥1,400,000	補 委 日本学術振興会
ホルター心電図による細動波(f波)周波数解析を指標とした心房細動手術の構築	深原 一晃	外科学(呼吸・循環・総合外科)	¥2,600,000	補 委 日本学術振興会
上皮間葉転換に伴うアポトーシス制御と抗癌剤耐性機構の解析	峠 正義	外科学(呼吸・循環・総合外科)	¥1,100,000	補 委 日本学術振興会
リンパ管新生を制御する分子の同定とリンパ節転移およびリンパ浮腫の治療研究	仙田 一貴	外科学(呼吸・循環・総合外科)	¥1,700,000	補 委 日本学術振興会
消化器癌幹細胞と微小環境との相互作用に関する治療標的マイクロRNAの探索	奥村 知之	外科学(消化器・腫瘍・総合外科)	¥1,100,000	補 委 日本学術振興会
GIST培養細胞のマイクロRNA解析による新規バイオマーカー探索と薬剤感受性予測	松井 恒志	外科学(消化器・腫瘍・総合外科)	¥1,400,000	補 委 日本学術振興会
免疫寛容という立場から正常妊娠、異常妊娠を再考する	齋藤 滋	産科婦人科学	¥3,500,000	補 委 日本学術振興会
口腔癌顎骨浸潤の免疫学的機序の解明と新規治療戦略の開発	野口 誠	歯科口腔外科学	¥1,100,000	補 委 日本学術振興会
心筋緻密化障害におけるサルコメア遺伝子変異と機能異常の網羅的解析	市田 蒔子	小児科学	¥1,600,000	補 委 日本学術振興会
精神疾患における脳形態変化の疾患特異性に関する研究	高橋 努	神経精神科	¥600,000	補 委 日本学術振興会
骨軟部肉腫に対する分化誘導療法の開発	金森 昌彦	人間科学1	¥800,000	補 委 日本学術振興会
超音波照射によるヘムオキシゲナーゼ1遺伝子発現制御と勃起不全治療への応用	渡部 明彦	腎泌尿器科学	¥1,200,000	補 委 日本学術振興会
軟骨変性破壊の共有パスウェイを標的とした分子治療の開発	木村 友厚	整形外科	¥3,300,000	補 委 日本学術振興会
追跡調査からみた腰椎椎間板ヘルニアの疾患感受性遺伝子の解明	川口 善治	整形外科	¥1,600,000	補 委 日本学術振興会
脊椎椎間板変性制御の病態解明および治療法の確立	関 庄二	整形外科	¥1,300,000	補 委 日本学術振興会

統合失調症前駆期の神経発達病態 解明と生物学的早期診断法の開発	鈴木 道雄	精神神経医学	¥1,500,000	補 委	日本学術振興会
2型糖尿病疾患感受性SNPから 得られる遺伝的情報の臨床的有用 性に関する検討	岩田 実	地域医療支援学 講座	¥900,000	補 委	日本学術振興会
肺線維症モデルマウスにおいて SRT1720がHSP47発現に与える効果	山田 徹	地域医療支援学 講座	¥1,000,000	補 委	日本学術振興会
温度感受性遺伝子導入動物カハ ール細胞を用いた消化管間質腫瘍の 悪性化機序	杉山 敏郎	内科学(第三)	¥200,000	補 委	日本学術振興会
ライブイメージング法を用いた間 葉系幹細胞の時間・空間的解析— 肝臓内ニッチの探索	高原 照美	内科学(第三)	¥1,000,000	補 委	日本学術振興会
癌の悪性度を決定する遺伝子群の 探索	安藤 孝将	内科学(第三)	¥1,300,000	補 委	日本学術振興会
水疱性類天疱瘡の病態関連モノク ローナル抗体の単離と新規診断 法・治療法の開発	清水 忠道	皮膚科学	¥1,300,000	補 委	日本学術振興会
表皮角化細胞における終末分化の 分子機構の解明と皮膚癌に対する 新規治療法の開発	牧野 輝彦	皮膚科学	¥1,300,000	補 委	日本学術振興会
花粉誘導眼瞼周囲皮膚炎に対する MIFの病因的役割の解明	吉久 陽子	皮膚科学	¥1,100,000	補 委	日本学術振興会
生薬誘導HSP70がUVB誘導DNA傷害 に及ぼす影響	竹上 與志昌	皮膚科学	¥2,000,000	補 委	日本学術振興会
PDGFが誘導する幹細胞を標的とし た神経組織の再生と修復	笹原 正清	病態・病理学	¥4,600,000	補 委	日本学術振興会
血小板由来増殖因子の神経細胞死 抑制およびシナプス形成促進作用 に対する役割の検討	石井 陽子	病態・病理学	¥1,300,000	補 委	日本学術振興会
血管内皮細胞由来EMPの生物活 性の解析および産生血管内皮細胞 の解明	山本 誠士	病態・病理学	¥1,300,000	補 委	日本学術振興会
病理学の最新テクノロジーを応用 した漢方薬の薬効・機能解析法の 確立	常山 幸一	病理診断学	¥4,000,000	補 委	日本学術振興会
発がん過程におけるインスレー ターおよびメチル化機構の相互関 係の解明と診断への展開	井村 穰二	病理診断学	¥1,900,000	補 委	日本学術振興会
ルーチンの病理組織標本を用いた 胞状奇胎の簡便な確定診断ストラ テジーの確立	三輪 重治	病理診断学	¥2,000,000	補 委	日本学術振興会
アルツハイマー病による全身麻酔 薬作用の修飾—疾病モデルマウス 海馬における検討—	廣田 弘毅	麻酔科学	¥700,000	補 委	日本学術振興会
クロマチンリモデリング分子AT RX遺伝子改変マウスによる脳発 達障害の分子病態解明	北島 勲	臨床分子病態検 査学	¥3,400,000	補 委	日本学術振興会
妊娠高血圧症候群の発症予防戦略 構築のための研究～産科学と疫学 と免疫学の融合～	塩崎 有宏	産科産婦人科	¥1,100,000	補 委	日本学術振興会
切迫早産例に対する本邦独自の治 療法を見直し、効率的な治療戦略 を確立するための研究	米田 哲	産科産婦人科	¥1,500,000	補 委	日本学術振興会
遠隔虚血プレコンディショニング による深部静脈血栓症に対する戦 略的予防法の確立	釈永 清志	手術部	¥900,000	補 委	日本学術振興会
新たなTaq酵素を用いた迅速な 感染症起因菌同定ITシステムの 臨床応用	仁井見 英樹	検査部	¥1,300,000	補 委	日本学術振興会

敗血症性急性肺傷害に対するHDAC阻害剤の効果に関する研究	青木 優太	手術部	¥700,000	補委	日本学術振興会
炎症性サイトカイン抑制による肉腫の増殖・転移抑制	安田 剛敏	整形外科	¥1,000,000	補委	日本学術振興会
マクロファージの酸素センシング機構の糖尿病発症における役割	仙田 聡子	第一内科	¥2,100,000	補委	日本学術振興会
心房細動の電氣的・構造的基質に対するPPAR γ 活性化とAT-1I受容体遮断の効果	西田 邦洋	第二内科	¥1,000,000	補委	日本学術振興会
ゴーシェ病治療薬開発を指向したイミノ糖型シャペロンのデザイン合成研究	加藤 敦	薬剤部	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
Na ⁺ , K ⁺ -ATPaseの発現上昇に着目した肝細胞癌の新規分子標的の探索的研究	渋谷 和人	第二外科	¥1,600,000	補委	日本学術振興会
早産の原因解明-羊水中感染微生物の迅速高感度検出システムの構築-	米田 徳子	産科婦人科	¥1,600,000	補委	日本学術振興会
更年期代謝障害とうつに対するエストロゲンの中枢作用に立脚した新規補充療法の開発	米澤 理可	産科婦人科	¥1,900,000	補委	日本学術振興会
ミエロイド系抑制性細胞の形質変化を利用した口腔癌に対する免疫ワクチン療法の開発	富原 圭	歯科口腔外科	¥1,000,000	補委	日本学術振興会
心筋緻密化障害の病態解明-患者血液細胞由来の心筋細胞を用いた機能解析-	廣野 恵一	周産母子センター	¥2,200,000	補委	日本学術振興会
肥満・糖尿病が肝がんの発症と腫瘍関連マクロファージの極性に与える影響に関する研究	薄井 勲	第一内科	¥2,800,000	補委	日本学術振興会
Sirt1が関節炎発症に及ぼす影響	朴木 博幸	第一内科	¥1,900,000	補委	日本学術振興会
トリプルネガティブ乳癌におけるKLF4、Her4経路の解明と治療効果予測の研究	長田 拓哉	第二外科	¥1,500,000	補委	日本学術振興会
胆汁中のmiRNAプロファイリングによる胆道癌の早期診断と個別化治療	澤田 成朗	第二外科	¥1,700,000	補委	日本学術振興会
刺激応答性遺伝子発現制御システムの治療応用の検討	森井 章裕	泌尿器科	¥1,600,000	補委	日本学術振興会
在宅緩和ケアにおける地域連携クリニカルパスおよび緩和ケアチームの有用性の検証	菓子井 達彦	臨床腫瘍部	¥1,500,000	補委	日本学術振興会
心房細動患者における薬剤性QT延長の新たな評価法の確立と遺伝的背景の解析	水牧 功一	—	¥900,000	補委	日本学術振興会

計 61

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- (注) 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- (注) 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印を付けた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Hounoki H	第一内科	Cytophagic histiocytic panniculitis in a 74-year-old man.	Age Ageing. 2013 May;42(3):409-
2	Hounoki H	第一内科	Elevated serum procalcitonin in anaphylaxis.	J Antimicrob Chemother. 2013 Jul;68(7):1689-90.
3	傍島 光男	第二内科	Repeated sauna therapy improves myocardial perfusion in patients with chronically occluded coronary artery-related ischemia.	Circ J. 2013;77(9):2264-70.
4	井上 博	第二内科	Target international normalized ratio values for preventing thromboembolic and hemorrhagic events in Japanese patients with non-valvular atrial fibrillation: results of the J-RHYTHM Registry.	Int J Cardiol. 2013 Jul 15;167(1):237-43.
5	城宝 秀司	第二内科	Adaptive Servo-ventilation Improves Exercise Oscillatory Ventilation and Ventilatory Inefficiency in Patients with Chronic Heart failure and Central Sleep	IJC Metabolic & Endocrine 2013;1:20-26.
6	井上 博	第二内科	Target international normalized ratio values for preventing thromboembolic and hemorrhagic events in Japanese patients with non-valvular atrial fibrillation: results of the J-RHYTHM Registry.	Circ J. 2013;77(9):2264-70.
7	山口 由明	第二内科	Target international normalized ratio values for preventing thromboembolic and hemorrhagic events in Japanese patients with non-valvular atrial fibrillation: results of the J-RHYTHM Registry.	Circ J. 2014 ;78(3):610-8.
8	井上 博	第二内科	Impact of gender on the prognosis of patients with non-valvular atrial fibrillation.	Am J Cardiol. 2014 Mar 15;113(6):957-62.
9	山崎 秀憲	第二内科	Renal vascular structural properties and their alterations by removal of uraemic toxins in a rat model of chronic kidney disease.	Clin Exp Pharmacol Physiol. 2014 Mar;41(3):238-45.
10	Saito S, Nakata K, Kajiura S, Ando T, Hosokawa A, Sugiyama T.	第三内科	Long-term follow-up outcome of imatinib mesylate treatment for recurrent and unresectable gastrointestinal stromal tumors.	Digestion
11	Mihara H, Suzuki N, Yamawaki H, Tominaga M, Sugiyama T.	第三内科	TRPV2 ion channels expressed in inhibitory motor neurons of gastric myenteric plexus contribute to gastric adaptive relaxation and gastric emptying in mice.	Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol.

12	Ueda A, Hosokawa A, Ogawa K, Yoshita H, Ando T, Kajiura S, Fujinami H, Kawai K, Nishikawa J, Tajiri K, Minemura M, Sugiyama T.	第三内科	Treatment outcome of advanced pancreatic cancer patients who are ineligible for a clinical trial.	Onco Targets Ther.
13	Arita K, Maeda-Kasugai Y, Ohshima K, Tsuzuki S, Suguro-Katayama M, Karube K, Yoshida N, Sugiyama T, Seto M.	第三内科	Generation of mouse models of lymphoid neoplasm using retroviral gene transduction of in vitro-induced germinal center B and T cells.	Exp Hematol.
14	Miyazono T, Shiina T, Michino J, Yasumura S, Sugiyama T.	第三内科	A novel HLA-B allele, HLA-B*39:01:16, identified by super high-resolution single-molecule sequence-based typing in a Japanese individual.	Tissue Antigens.
15	Murakami J, Matsui S, Ishizawa S, Arita K, Wada A, Miyazono T, Hounoki H, Shinoda K, Taki H, Sugiyama T.	第三内科	Recurrence of IgG4-related disease following treatment with rituximab.	Mod Rheumatol.
16	Ueda A, Hosokawa A, Ogawa K, Yoshita H, Mihara H, Ando T, Kajiura S, Fujinami H, Nishikawa J, Minemura M, Terada M, Kobayashi T, Horikawa N, Yabushita K, Note M, Sugiyama T.	第三内科	Non-randomized comparison between irinotecan plus mitomycin C and irinotecan alone in patients with advanced gastric cancer refractory to fluoropyrimidine and platinum.	Anticancer Res.
17	Ogawa K, Ueno T, Kato K, Nishitani H, Akiyoshi K, Iwasa S, Nakajima TE, Hamaguchi T, Yamada Y, Hosokawa A, Sugiyama T, Shimada Y.	第三内科	A retrospective analysis of periodontitis during bevacizumab treatment in metastatic colorectal cancer patients.	Int J Clin Oncol.

18	Yoshita H, Hosokawa A, Ueda A, Ando T, Kajiura S, Kato H, Kawabe H, Tomizawa G, Horikawa N, Yabuhita K, Note M, Sugiyama T.	第三内科	Predictive value of optimal morphologic response to first-line chemotherapy in patients with colorectal liver metastases.	Digestion.
19	Wada A, Shiina T, Michino J, Yasumura S, Sugiyama T.	第三内科	A novel HLA-B allele, HLA-B*44:184, identified by super high-resolution single-molecule sequence-based typing in a Japanese individual.	Tissue Antigens.
20	Fujinami H, Hosokawa A, Ogawa K, Nishikawa J, Kajiura S, Ando T, Ueda A, Yoshita H, Sugiyama T.	第三内科	Endoscopic submucosal dissection for superficial esophageal neoplasms using the stag beetle knife.	Dis Esophagus.
21	Tajiri K, Tsuneyama K, Miyazono T, Kawai K, Minemura M, Sugiyama T.	第三内科	A Case of Primary Biliary Cirrhosis That Progressed Rapidly after Treatment Involving Rituximab.	Case Rep Gastroenterol
22	Nishikawa J, Mihara H, Sugiyama T.	第三内科	Systemic sclerosis in small bowel.	Clin Gastroenterol Hepatol.
23	3) Nishikawa J, Mihara H, Fujinami H, Nakajima T, Hosokawa A, Sugiyama T.	第三内科	Education and imaging. Gastrointestinal: Cobblestone in sigmoid volvulus	J Gastroenterol Hepatol.
24	Yamakoshi T, Makino T, Ur Rheman M, Yoshihisa Y, Sugimori M, Shimizu T	皮膚科	Trichohyalin-like 1 protein, a member of fused S100 proteins, is expressed in normal and pathologic human skin	Biochem Biophys Res Commun. 432: 66-72, 2013
25	Mizawa M, Yamaguchi M, Ueda C, Makino T, Shimizu T	皮膚科	Stress evaluation in adult patients with atopic dermatitis using salivary cortisol	Biomed Res Int. 2013, 138027, 2013
26	Makino T, Yanagihara M, Oiso N, Furuichi M, Shimizu T	皮膚科	Repigmentation of the epidermis around the acrosyringium in piebald skin: An ultrastructural examination	Br J Dermatol. 168: 910-912, 2013

27	Yamakoshi T, Andoh T, Makino T, Kuraishi Y, Shimizu T	皮膚科	Clinical and histopathological features of itch in patients with alopecia areata patients	Acta Derma Venereol. 93: 575-576, 2013
28	Shimizu T	皮膚科	Efficacy of Kampo medicine in treating atopic dermatitis: an overview	Evid Based Complement Alternat Med 2013, 260235, 2013
29	Makino T, Yamakoshi T, Mizawa M, Shimizu T	皮膚科	Ultraviolet B irradiation induces the expression of hornerin in xenotransplanted human skin	Acta Histochem. 116:20-24, 2014
30	Norisugi O, Yoshihisa Y, Shimizu K, Shimizu T	皮膚科	In vitro cytokine expression by PBMCs in herbal drug-induced skin eruption	Acta Derma Venereol. 94:58-62, 2014
31	Makino T, Mizawa M, Yamakoshi T, Takaishi M, Shimizu T	皮膚科	Expression of filaggrin-2 protein in the epidermis of human skin diseases: A comparative analysis with filaggrin	Biochem Biophys Res Commun. 449: 100-106, 2014
32	Ueda C, Makino T, Mizawa M, Shimizu T	皮膚科	Erythema papulatum centrifugum: A sweat-related dermatitis	J Am Acad Dermatol. 69: e103-105, 2013
33	Murayama S, Mizawa M, Takegami Y, Makino T, Shimizu T	皮膚科	Two cases of keratosis follicularis squamosa (Dohi) caused by swimsuit friction	Eur J Dermatol. 23:230-232, 2013
34	Ueda C, Makino T, Mizawa M, Norisugi O, Shimizu T	皮膚科	Granulomatosis with polyangiitis of the skin induced by a chest drainage tube	Eur J Dermatol. 23:565-567, 2013
35	Seki Y, Makino T, Ueda C, Takegami Y, Matsui K, Shimizu T	皮膚科	Successful treatment with PUVA in a Japanese patient with photosensitive mycosis fungoides: Case report and review of the literatures	Eur J Dermatol. 23:559-560, 2013
36	Takegami Y, Makino T, Matsui K, Ueda C, Fukuda S, Hashimoto T, Shimizu T	皮膚科	Coexistence of antilaminin-332-type mucous membrane pemphigoid, lamina lucida-type linear IgA bullous dermatosis and Sjogren syndrome	Clin Exp Dermatol. 38:194-196, 2013

37	Shimizu K, Makino T, Ueda C, Takegami Y, Matsui K, Mizawa M, Shimizu T	皮膚科	Detection of hypohidrosis in Japanese patients with pigmentary mosaicism	Eur J Dermatol. 23:913-914, 2013
38	Mori N, Makino T, Matsui K, Takegami Y Murayama S, Shimizu T	皮膚科	Successful treatment with UVA rush hardening in a case of solar urticarial	Eur J Dermatol. 24:117-119, 2014
39	Norisugi O, Yamakoshi T, Shimizu T	皮膚科	Successful treatment of lichen amyloidosis using CO2 surgical laser	Dermatol Ther. 27:71-73, 2014
40	Mori N, Mizawa M, Hara H, Norisugi O, Nakano H, Sawamura D, Shimizu T	皮膚科	Hailey-Hailey disease diagnosed by exacerbation of contact dermatitis with topical crotamiton	Eur J Dermatol. 24: 263-264, 2014
41	Matsui K, Makino T, Takegami Y, Murayama S, Seki Y, Ishii N, Hashimoto T, Shimizu T	皮膚科	Bullous pemphigoid with IgG anti-LAD-1 antibodies	Eur J Dermatol. 24:275-276, 2014
42	金兼 弘和	Department of Pediatrics, Graduate School of Medicine and Pharmaceutical Sciences, University of Toyama, Toyama, Japan	Efficacy and safety of IgPro20, a subcutaneous immunoglobulin, in Japanese patients with primary immunodeficiency diseases.	J Clin Immunol. 2014 Feb;34 (2) :204-11
43	野村 恵子	Department of Pediatrics, Graduate School of Medicine and Pharmaceutical Sciences, University of Toyama, Toyama, Japan	Neutropenia and myeloid dysplasia in a patient with delayed-onset adenosine deaminase deficiency.	Pediatr Blood Cancer. 2013 May;60 (5) :885-6.
44	Ikeda E	神経精神医学	Prefrontal dysfunction in remitted depression at work reinstatement using near-infrared spectroscopy	Psychiatry Res. Neuroimaging 2013 Dec 30;214 (3) :254-9
45	Miyaniishi T	神経精神医学	LORETA current source density for duration mismatch negativity and neuropsychological assessment in early schizophrenia	PLoS One 2013;8 (4) :e61152

46	Takahashi T	神経精神医学	Longitudinal MRI study of the midline brain regions in first-episode schizophrenia	Psychiatry Res Neuroimaging 2013 May;212(2):150-3
47	Takahashi T	神経精神医学	Altered depth of the olfactory sulcus in subjects at risk of psychosis	Schizophr Res 2013 Sep;149(1-3):186-7
48	Takahashi T	神経精神医学	Increased pituitary volume in early psychosis	Psychiatry Clin Neurosci 2013 Nov;67(7):540-8
49	Takayanagi M	神経精神医学	Reduced anterior cingulate gray matter volume and thickness in subjects with deficit schizophrenia	Schizophr Res 2013 Nov;150(2-3):484-90
50	Takayanagi Y	神経精神医学	Relationships between serum leptin level and severity of positive symptoms in schizophrenia	Neurosci Res 2013 Sep-Oct;77(1-2):97-101
51	Takayanagi Y	神経精神医学	Hippocampal volume reduction correlates with apathy in traumatic brain injury, but not schizophrenia	J Neuropsychiatry Clin Neurosci 2013 Fall;25(4):292-301
52	Uehara T	神経精神医学	Chronic treatment with tandospirone, a 5-HT1A receptor partial agonist, suppress footshock stress-induced lactate production in the prefrontal cortex of rats	Pharmacol Biochem Behav 2013 Nov;113(15):1-6
53	Takahashi T	神経精神医学	Altered depth of the olfactory sulcus in ultra high-risk individuals and patients with psychotic disorders	Schizophr Res 2014 ;153(1-3):18-24
54	Takayanagi Y	神経精神医学	Accuracy of reports of lifetime mental and physical disorders:results from the Baltimore Epidemiological Catchment Area study	JAMA Psychiatry 2014 Mar;71(3):273-80
55	Higuchi Y	神経精神医学	Perospirone normalized P300 and cognitive function in a case of early psychosis	J Clin Psychopharmacol. 2013 Apr;33(2):263-6
56	Saori Nagura	第一外科	Effect of exogenous Oct4 overexpression on cardiomyocyte differentiation of human amniotic mesenchymal cells.	Cell Reprogram
57	Oumura T	第二外科	Relapse-associated microRNA in gastric cancer patients after S-1adjuvant chemotherapy	ONCOLOGY REPORTS
58	Kuroda S.	脳神経外科	Incidence, locations, and longitudinal course of silent microbleeds in moyamoya disease: a prospective T2*-weighted MRI study	Stroke, 44: 516-518, 2013

59	Kashiwazaki D.	脳神経外科	Size ratio can highly predict rupture risk in intercranial small (<5 mm) aneurysms	Stroke, 44: 2169-2173, 2013
60	Kashiwazaki D.	脳神経外科	Long-term clinical and radiological results of endovascular internal trapping in vertebral artery dissection	Neuroradiology, 55: 201-206, 2013
61	Hori S.	脳神経外科	Alpha- and theta-range cortical synchronization and corticomuscular coherence during joystick manipulation in a virtual navigation task	Brain Topogr, 26: 591-605, 2013
62	Takaiwa A.	脳神経外科 (リハビリテーション部)	Effect of carotid endarterectomy on cognitive function in patients with asymptomatic carotid artery stenosis	Acta Neurochir (Wien), 155: 627-633, 2013
63	Kuroda S.	脳神経外科	Bone marrow stromal cell transplantation for ischemic stroke - its multi-functional feature	Acta Neurobiol Exp (Wars), 73: 57-65, 2013
64	Kuroda S.	脳神経外科	Translational challenge for bone marrow stroma cell therapy after stroke	Front Neurol Neurosci, 32: 62-68, 2013
65	Kuroda S.	脳神経外科	Clinical significance of STA-MCA double anastomosis for hemodynamic compromise in post-JET/COSS era.	Acta Neurochir (Wein), 156: 77-83, 2014
66	Kashiwazaki D.	脳神経外科	Delayed abducens nerve palsy after transvenous coil embolization for cavernous sinus dural arteriovenous fistulae.	Acta Neurochir (Wein), 156: 97-101, 2014
67	Hori S.	脳神経外科	Syringomyelia associated with Paget disease of the skull -case report-	Neurol Med Chir (Tokyo), 53: 115-118, 2013
68	Kashiwazaki D.	脳神経外科	Reversal of cognitive dysfunction by total removal of a large lateral ventricle meningioma: a case report with neuropsychological assessments	Case Rep Neurol, 6: 44-49, 2014
69	川口 善治	医学薬学研究部 (医学)	Relationship between postoperative axial symptoms and the rotational angle of the cervical spine after laminoplasty.	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2013 Jul;23
70	川口 善治	医学薬学研究部 (医学)	Variables affecting postsurgical prognosis of thoracic myelopathy caused by ossification of the ligamentum flavum.	Spine J. 2013 Sep;13(9):1095-107.
71	川口 善治	医学薬学研究部 (医学)	Bone mineral density of the femoral neck is increased after successful lumbar spine surgery: a 2-year prospective analysis.	Spine (Phila Pa 1976). 2013 Mar 15;38(6):E367-
72	川口 善治	医学薬学研究部 (医学)	Ossification of the posterior longitudinal ligament in not only the cervical spine, but also other spinal regions: analysis using multidetector CT of the whole spine.	Spine (Phila Pa 1976). 2013 Nov 1;38(23):E1477
73	川口 善治	医学薬学研究部 (医学)	Anterior decompressive surgery after cervical laminoplasty in patients with ossification of the posterior longitudinal ligament.	Spine J. 2013;30(13):1378.
74	関 庄二	医学薬学研究部 (医学)	Lumbar spinal stenosis due to a large calcified mass in the ligamentum flavum.	Asian Spine J. 2013 Sep;7(3):236-41.

75	元村 拓	附属病院	Inhibitory effect of tacrolimus on progression of joint damage in patients with rheumatoid arthritis.	Int J Rheum dis. 2013 Nov ; 20.
76	川口 善治	医学薬学研究部 (医学)	Surgical treatment of lumbar vertebral collapse in a patient with Parkinson's disease: a case report. Eur J Orthop Surg Traumatol.	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2013 Nov;23
77	安田 剛敏	附属病院	Extracapsular wide resection of a femoral neck osteosarcoma and its reconstruction using a pasteurized autograft-prosthesis composite: A case report.	Oncol Lett. 2013 Oct;6(4):1147-51.
78	杉森 一仁	附属病院	Mitochondrial myopathy with femoral neck fracture. A case report.	Int Med J. 2013;20:737-9.
79	Saito S ¹ , Minakami H ² , Nakai A ³ , Unno N ⁴ , Kubo T ⁵ , Yoshimura Y ⁶ .	¹ Department of Obstetrics and Gynecology, University of Toyama, Toyama; ² Department of Obstetrics, Hokkaido University Graduate School of Medicine, Sapporo; ³ Department of Obstetrics and Gynecology, Tama Nagayama Hospital, Nippon Medical School; the Division of Obstetrics, ⁴ Department of Obstetrics and Gynecology, Kitasato University, Kanagawa, ⁵ Department of Maternal-Fetal and Neonatal Medicine, National Center for Child Health and Development; ⁶ Department of Obstetrics and Gynecology, Keio University, Tokyo; Japan,	Outcomes of infants exposed to oseltamivir or zanamivir in utero during pandemic (H1N1) 2009.	Am J Obstet Gynecol. 2013 Aug;209(2):130.e1-e9.

80	<p>Arihiro Shiozaki¹, Satoshi Yoneda¹, Masao Nakabayashi², Yoshiharu Takeda², Satoru Takeda³, Motoi Sugimura³, Koyo Yoshida⁵, Atsushi Tajima⁵, Mami Manabe⁶, Kozo Akagi⁷, Shoko Nakagawa⁸, Katsuhiko Tada⁹, Noriaki Imafuku⁹, Masanobu Ogawa¹⁰, Tomoya Mizunoe¹¹, Naohiro Kanayama¹², Hiroaki Itoh¹², Shigeki Minoura⁴, Mitsuharu Ogin⁴ and Shigeru Saito¹</p>	<p>¹Department of Obstetrics and Gynecology, University of Toyama, Toyama, ²Department of Obstetrics and Gynecology, Aiiiku Hospital, ³Department of Obstetrics and Gynecology, Juntendo University, ⁴Department of Obstetrics and Gynecology, National Center for Global Health and Medicine, Tokyo, ⁵Department of Obstetrics and Gynecology, Juntendo Urayasu Hospital, Chiba, ⁶Department of Obstetrics and Gynecology, National Hospital Organization, Hiroasaki National Hospital, Aomori, ⁷Department of Obstetrics and Gynecology, National Hospital Organization, Sendai Medical Center, Miyagi, ⁸Department of Obstetrics and Gynecology, Seichokai Fuchu Hospital, Osaka, ⁹Department of Obstetrics and Gynecology, National Hospital Organization, Okayama Medical Center, Okayama, ¹⁰Department of Obstetrics and Gynecology, National Hospital Organization, Kyushu Medical Center, Fukuoka, ¹¹Department of Obstetrics and Gynecology, National Hospital Organization, Kure Medical Center, Hiroshima, and ¹²Department of Obstetrics and Gynecology, Hamamatsu Medical College, Shizuoka, Japan</p>	<p>Multiple pregnancy, short cervix, part-time worker, steroid use, low educational level, and male fetus are risk factors for preterm birth in Japan: A multicenter, prospective study.</p>	<p>J Obstet Gynaecol Res. 2014 Jan; 40(1): 53-61.</p>
81	<p>N. Yoneda^a, A. Shiozaki^a, K. Miura^b, R. Yonezawa^a, K. Takemura^a, S. Yoneda^a, H. Masuzaki^b, S. Saito^a</p>	<p>^a Department of Obstetrics and Gynecology, University of Toyama, Toyama, Japan ^b Department of Obstetrics and Gynecology, University of Nagasaki, Nagasaki, Japan</p>	<p>A triploid partial mole placenta from paternal isodisomy with a diploid fetus derived from one sperm and one oocyte may have caused angiogenic imbalance leading to preeclampsia-like symptoms at 19 weeks of gestation.</p>	<p>Placenta. 2013 Jul;34(7):631-634.</p>
82	<p>Miyakoshi A</p>	<p>眼科</p>	<p>Efficacy of Intraoperative Anterior Segment Optical Coherence Tomography during Descemet's Stripping Automated Endothelial Keratoplasty.</p>	<p>Ophthalmol. 2014 Feb 2:2014:562062. doi: 10.1155/2014/562062. eCollection</p>
83	<p>Tojo N</p>	<p>眼科</p>	<p>Comparison of Fluctuations of Intraocular Pressure Before and After Selective Laser Trabeculoplasty in Normal-tension Glaucoma Patients.</p>	<p>J Glaucoma. 2013 Nov 16. [Epub ahead of print]</p>
84	<p>Hayashi A</p>	<p>眼科</p>	<p>Multimodal imaging of the fundus.</p>	<p>J Ophthalmol. 2013;2013:956761. doi: 10.1155/2013/956761. Epub 2013 Jun 18. No abstract available.</p>
85	<p>Tojo N</p>	<p>眼科</p>	<p>Adaptive optics fundus images of cone photoreceptors in the macula of patients with retinitis pigmentosa.</p>	<p>Clin Ophthalmol. 2013;7:203-10. doi: 10.2147/OPHT.S39879. Epub 2013 Jan</p>
86	<p>Tojo N</p>	<p>眼科</p>	<p>Analysis of macular cone photoreceptors in a case of occult macular dystrophy.</p>	<p>Clin Ophthalmol. 2013;7:859-64. doi: 10.2147/OPHT.S44446. Epub 2013 May</p>

87	將積 日出夫	耳鼻咽喉科	Response to intra-arterial cisplatin and concurrent radiotherapy in a patient with primary mucosal malignant melanoma of the nasal cavity.	Head Neck. 2013 Apr;35(4):E131-7. doi:10.1002/hed.21976. Epub 2011 Dec 16
88	小宮 顯	腎泌尿器科学講座	Correlations among urinary, sexual, and testicular functions and health-related quality of life.	J Men's Health.
89	小宮 顯	腎泌尿器科学講座	Application of a new technique, spiral tissue microarrays constructed using needle biopsy specimens, to prostate cancer research.	Int J Oncol.
90	小宮 顯	腎泌尿器科学講座	Analysis of inter-examination differences in sperm nuclear vacuoles among male patients with infertility	Syst Biol Reprod Med.
91	野崎 哲夫	腎泌尿器科学講座	Observation of Spermatozoa by a high-magnification microscope.	Reprod Med Biol.
92	野崎 哲夫	腎泌尿器科学講座	Laparoscopic resection of adrenal and extra-adrenal pheochromocytoma.	J Endourol.
93	野崎 哲夫	腎泌尿器科学講座	Multiple organ retraction during urological laparoscopic surgery.	J Laparoendosc Adv Surg Tech A.
94	野崎 哲夫	腎泌尿器科学講座	Urethral approach in retroperitoneoscopic radical prostatectomy: A novel technique for safe prostate dissection.	Curr Urol.
95	野崎 哲夫	腎泌尿器科学講座	Laparoscopic resection of retroperitoneal neural tumors.	Curr Urol.
96	野崎 哲夫	腎泌尿器科学講座	Laparoendoscopic single-site surgery for partial nephrectomy without ischemia using a microwave tissue coagulator.	Surg Innov.
97	森井 章裕	腎泌尿器科学講座	Utilization of microRNAs with decreased expression levels in response to X-ray irradiation for fine-tuning radiation-controlled gene regulation.	Int J Mol Med.
98	小宮 顯	腎泌尿器科学講座	Small cell carcinoma of the prostate after high-dose-rate brachytherapy for low-risk prostatic adenocarcinoma.	Oncol Lett.
99	伊東 久勝	富山大学麻醉科学講座	Analysis of sleep disorders under pain using an optogenetic tool: possible involvement of the activation of dorsal raphe nucleus-serotonergic neurons.	Molecular Brain. doi:10.1186/1756-6606-6-59. 2013 Dec 26;
100	新井 直也	歯科口腔外科	In vitro synergistic effects of 28lednic acid and calcium on viability of human epithelial cells	Oral Disease 2013. 19(2):200-205
101	富原 圭	歯科口腔外科	Gemcitabine chemotherapy induces phenotypic alterations of tumor cells that facilitate antitumor T cell responses in a mouse model of oral cancer	Oral Oncology 2014. 50(5):457-467

102	藤本 誠	附属病院和漢診療科	A dietary restriction influences the progression but not the initiation of MSG-Induced nonalcoholic steatohepatitis.	J Med Food. 2014 Mar;17(3):374-83.
103	田口芳治	神経内科	Intracranial hypotension with positional hearing loss.	Intern Med.
104	田口芳治	神経内科	Koilonychia in a patient with subacute iron-deficiency anemia.	Intern Med.
105	田口芳治	神経内科	Findings of 123I-iomazenil SPECT during and after stroke-like episodes in a patient with MELAS.	Intern Med.
106	山本善裕	感染症科	Prospective randomized comparison study of piperacillin/tazobactam and meropenem for healthcare-associated pneumonia in Japan.	J Infect Chemother. 2013 Apr;19(2):291-
107	奥寺 敬	災害・救命センター	Integrated Multi-modality Simulation Curriculum. Immediate Stroke Life Support (ISLS).	J Clin Sim Res.
108	若杉雅浩	災害・救命センター	The Figurantcard as a Tool to Link between Live Field Exercise and Virtual Simulation Exercise in Disaster Medical Training.	J Clin Sim Res.
109	Fujinami H, Hosokawa A, Ogawa K, Nishikawa J, Kajiura S, Ando T, Ueda A, Yoshita H, Sugiyama T.	光学医療診療部	Endoscopic submucosal dissection for superficial esophageal neoplasms using the stag beetle knife.	Diseases of the Esophagus
110	廣野 恵一	Department of Pediatrics, Graduate School of Medicine, University of Toyama	N-terminal pro-brain natriuretic peptide as a predictor of reoperation in children with surgically corrected tetralogy of Fallot.	Circ J 2014 Feb 25;78(3):693-700
111	川崎 裕香子	Department of Pediatrics, Mie University, Tsu, Mie, Japan	A novel Wiskott-Aldrich syndrome protein mutation in an infant with thrombotic thrombocytopenic purpura.	Eur J Haematol. 2013 Feb;90(2):164-8
112	Tsuneyama K, Baba H, Kikuchi K, Nishida T, Nomoto K, Hayashi S, Miwa S, Nakajima T, Nakanishi Y, Masuda S, Terada M, Imura J, Selmi C.	病理診断学講座	Autoimmune features in metabolic liver disease: a single-center experience and review of the literature.	Clin Rev Allergy Immunol. 2013 Aug;45(1):143-148.

113	Imura J, Abe K, Uchida Y, Shibata M, Tsunematsu K, Sathoh M, Miwa S, Nakajima T, Nomoto K, Hayashi S, Tsuneyama K.	病理診断学講座 (併任: 病理部)	Introduction and utility of liquid-based cytology on aspiration biopsy of peripheral nodular lesions of the lung.	t. 2014 Mar;7(3)
114	Nomoto K, Hayashi S, Tsuneyama K, Hori T, Ishizawa S	病理部	Cytopathology of cervical mesonephric adenocarcinoma: a report of two cases.	Cytopathology. 2013 Apr;24(2):129-131.
115	1) Keiichiro Kita, Maiko Kuroiwa, Nami Kawabuchi, Hiroko Nakagaito, Tomoyuki Koura	総合診療部	Tophacrous Gout In Anorexia Nervosa	General Medicine 14(1):61-64, 2013.
116	1) Tomoyuki Koura, Keiichiro Kita, Namie Kawabuchi, Fumiko Watanabe, Hiroko Nakagaito, Taro Miura, Maiko Kuroiwa, Kiichiro	総合診療部	Clinical and Laboratory Characteristics of Urosepsis: A Ten Case Series	General Medicine 14(2):104-107, 2013.
117	松下 功	リハビリテーション部	Long-term clinical and radiographic results of cementless total hip arthroplasty for patients with rheumtoid arthritis	Mod Rheum

計 117

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- (注) 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- (注) 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- (注) 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- (注) 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

(注) 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

(注) 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
<p>・ 手順書の主な内容</p> <p>①目的②審査資料②-1研究実施の審査②-2研究計画変更による研究継続の審査②-3重篤な有害事象報告及び研究継続の審査②-4研究の継続に影響を及ぼす事実や情報の報告及び研究継続の審査③研究計画の点検④審査④-1審査種別の決定④-2事前審査（研究実施の審査時のみ）④-3迅速審査④-4委員会の開催⑤研究実施中及び終了時の調査⑤-1研究経過報告⑤-2終了報告⑥秘密の保全⑦資料の保全⑧議事の公開、厚生労働大臣等への報告</p>	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回
<p>(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。</p> <p>(注) 2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。</p>	

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
<p>・ 規定の主な内容</p> <p>厚生労働科学研究における利益相反の管理に関する指針(H20.3.31科発第0331001号厚生科学課長)、文部科学省[21世紀型産学官連携手法の構築に係るモデルプログラム]印象研究利益相反ポリシー策定に関するガイドライン、その他これらに類する国が定める指針に準拠している。</p>	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 12 回
<p>(注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。</p>	

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 4 回
<p>・ 研修の主な内容</p> <p>第1回研究を始めるための「研究倫理講習会」</p> <p>第2回研究を始めるための「研究倫理講習会」及び第1,2回資格更新のための「研究倫理講習会」</p> <p>第3回研究を始めるための「研究倫理講習会」及び第3回資格更新のための「研究倫理講習会」</p> <p>第4回研究を始めるための「研究倫理講習会」及び第4回資格更新のための「研究倫理講習会」</p>	

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

別紙1「平成25年度 プログラム参加医師名簿」を参照。

2 研修の実績

研修医の人数	131人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
林 龍二	第一内科	呼吸器内科副科長	23年	呼吸器内科
峯村 正実	第三内科	消化器内科副科長	28年	消化器内科
平井 忠和	第二内科	循環器内科副科長	30年	循環器内科
供田 文宏	第二内科	腎・高血圧内科副科長	32年	腎臓内科
高嶋 修太郎	神経内科	神経内科副科長	35年	神経内科
村上 純	第三内科	血液内科副科長	23年	血液内科
薄井 勲	第一内科	代謝・内分泌内科副科長	23年	内分泌内科
岩田 実	第一内科	地域医療支援学客員准教授	22年	代謝内科
山本 善裕	感染症科	感染予防医学教授	23年	感染症内科
松井 祥子	第一内科	保健管理センター杉谷支所准教授	30年	アレルギー疾患内科又はアレルギー科
篠田 晃一郎	第一内科	第一内科病棟医長	19年	リウマチ科
土岐 善紀	第一外科	呼吸器一般外科副科長	21年	呼吸器外科
長田 拓哉	第二外科	消化器外科副科長	23年	消化器外科
長田 拓哉	第二外科	乳腺内分泌外科副科長	23年	乳腺外科
深原 一晃	第一外科	心臓血管外科副科長	23年	心臓血管外科
長田 拓哉	第二外科	乳腺内分泌外科副科長	23年	内分泌外科
廣川 慎一郎	第二外科	医学教育学准教授	32年	小児外科
高橋 努	神経精神科	神経精神科副科長	18年	精神科
川口 善治	整形外科	整形外科副科長	26年	整形外科
永井 正一	脳神経外科	脳神経外科副科長	22年	脳神経外科
米田 哲	産科婦人科	産科婦人科医局長	18年	産婦人科
柳澤 秀一郎	眼科	眼科副科長	19年	眼科
石田 正幸	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科副科長	20年	耳鼻咽喉科
富澤 岳人	放射線科	放射線科医局長	19年	放射線科
廣田 弘毅	麻酔科	麻酔科副科長	30年	麻酔科
若杉 雅浩	災害・救命センター	災害・救命センター医局長	21年	救急科
仲盛 健治	歯科口腔外科	歯科口腔外科副科長	24年	歯科

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

がん診療に携わる医師・コメディカルの緩和ケアについて、基本的な知識を習得することの継続性を確保し、治療の初期段階からの緩和ケアの提供が継続して行われるように研修するために、ファシリテーター等の指導のもと、参加者が、模擬の医師や家族の役を担当し、緩和ケアフォローアップを疑似体験し、緩和ケアの対応を習得する。

・研修の期間・実施回数

平成26年1月25日（土）9：00～17：40・1回

・研修の参加人数

63人

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

保険診療にかかる研修会として、「社会保険診療報酬支払基金と保険診療の審査について」と題し、担当官の講義を受講することによって、適正かつ確実な保険診療を実施できるよう、その対応策を習得する。

・研修の期間・実施回数

平成26年2月17日（月）18：00～19：00・1回

・研修の参加人数

164人

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

該当外。

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 塚田 一博
管理担当者氏名	経営企画情報部長 中川肇、薬剤部長 足立伊佐雄、医事課長 菊映子、放射線部長 野口京、看護部長 米道智子、病院総務課長 堰富美雄

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		医事課、薬剤部、看護部、放射線部	カルテ等（電子カルテを含む。）の病歴資料は、1患者1ファイル方式による永久一元番号で分類し、外来カルテは最終受診日から8年以上、入院カルテは退院日から10年以上の保存を原則としている。また、電子カルテ情報は、持ち出しが必要な場合は、経営企画情報部で所定の様式に記載していただいた後、担当の方で処理をして、持ち出しの記録を明確にして管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	医薬系総務課人事・職員支援チーム	/
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院総務課	
	高度の医療の研修の実績	病院総務課臨床研修チーム	
	閲覧実績	病院総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課、薬剤部	
第規 一則 号第 一に 掲条 げの 十一 体制 第一 の確 項保 各号 状及 び第 九条 の二 十第 一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課医療安全	/
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課医療安全	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課医療安全	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課医療安全	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医事課医療安全	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課医療安全	
	医療に係る安全管理を行う部門の配置状況	医事課医療安全	
当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課医療安全		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一	院内感染のための指針の策定状況	医事課医療安全
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課医療安全
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課医療安全
	第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課医療安全
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	医事課医療安全
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医事課医療安全
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医事課医療安全
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課医療安全
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医事課医療安全
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医事課医療安全
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医事課医療安全	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課医療安全	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
閲覧責任者氏名	病院事務部病院総務課長 堰 富美雄
閲覧担当者氏名	病院事務部病院総務課課長補佐 藏川 一正
閲覧の求めに応じる場所	病院事務部病院総務課
閲覧の手続の概要	
原則として、提供先における利用目的、利用する業務の根拠法令、利用する記録範囲及び記録項目、利用形態等について書面を取り交わす。また、安全確保の措置を要求するとともに、必要があると認めるときは、提供前又は随時に実地の調査等を行い措置状況を確認し、その結果を記録するとともに、改善要求等を講ずる。	

(注) 既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の1第1項各号及び第9条の2第3第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	○有・無
<p>・指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 病院における安全管理に関する基本的考え方2. 医療安全の組織と体制に関する基本事項3. 安全に係る研修に関する基本方針4. 医療事故発生時の対応に関する基本指針5. 医療従事者と患者等との間の情報の共有に関する基本方針6. 患者等からの相談への対応に関する基本方針7. その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療安全管理方針の策定及び推進に関すること。2. インシデントの報告に関すること。3. 医療安全管理の教育及び研修に関すること。4. 医療安全管理対策の検討及び医療安全管理マニュアル作成に関すること。5. 医療の質の向上への取り組みに関すること。6. 重大なインシデントに係る調査及び対策に関すること。7. 医療事故対応の意思決定・報告・広報に関すること。8. 医療事故に係る当事者双方の対応に関すること。9. その他医療安全管理に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 6 回
<p>・研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 平成25年度第1回医療安全推進のための講演会2. 平成25年度第2回医療安全推進のための講演会3. 第37回インシデント事例検討会4. 第38回インシデント事例検討会5. 第39回インシデント事例検討会6. 平成25年度第3回医療安全推進のための講演会	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・医療機関内における事故報告等の整備 ○有・無	

・その他の改善のための方策の主な内容：

- 1 医療安全管理室の専任スタッフが、インシデント報告書を毎日チェックし、事前に3b以上の報告などの重要事例を検証し、医療安全管理室長及び医療安全管理室ミーティングに報告する。必要に応じ、室長が特別事例検討会を開催し、事実確認のうえ、警察への届出及び医医療事故調査委員会の是非を検討し、病院長及び医療安全管理委員会に報告する。
- 2 医療安全管理室ミーティングにおいて、インシデント報告のうち、院内全体に関わる内容を中心に、体系的な問題点等を検討し、改善策を医療安全管理委員会の承認を得て、全部署に周知する。
- 3 各部署において、当該部署のセーフティマネージャーが中心となって、事故発生の背景や内容、防止対策について、カンファレンス等でRCAを用いて検討する。
- 4 インシデント事例検討会において、当該期間に発生した事例から2例を選択し、事例の概要説明及び再発防止策を発表後、質疑応答形式でディスカッションを行う。

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	(有) (2 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有) (1 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	(有) ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任 (2) 名 兼任 (22) 名 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1 医療安全管理者の業務 <ol style="list-style-type: none"> 1. インシデントの事例・対策等の情報収集に関すること。 2. インシデントの収集・調査・分析、発生要因の究明及び防止対策に関すること。 3. 医療安全管理に係る病院内の巡視・点検・評価に関すること。 4. セーフティマネージャー会議に関すること。 5. 医療事故情報の管理に関すること。 2 管理室の業務 <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療事故防止対策の周知徹底に関すること。 2. 医療安全管理に係る業務改善の提言・指導に関すること。 3. 医療安全管理に係る教育・研修・啓蒙に関すること。 4. 医療安全管理マニュアル遵守の確認と成果の検証に関すること。 5. 医療安全管理委員会への情報提供及び改善策の提案に関すること。 6. 特別事例検討会開催の是非に関すること。 7. インフォームドコンセントの適正運用に関すること。 8. 適正な診療録のあり方の検討及び情報公開への対応に関すること。 9. その他医療の安全に関すること。 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	(有) ・ 無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の整備状況	①・無
<p>・指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院における感染対策に関する基本的な考え方 2. 感染対策の組織と体制に関する基本事項 3. 感染対策に係る研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 病院感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者等に対する指針の閲覧に関する基本方針 7. その他感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染予防対策の確立に関すること。 2. 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。 3. 感染予防の啓発及び教育に関すること。 4. 感染に係る事故等の疫学調査及び事後措置に関すること。 5. 感染予防対策の評価及び改善に関すること。 6. 感染予防対策に係る情報の収集に関すること。 7. その他感染予防に関すること。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染予防対策の確立に関すること。 2. 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。 3. 感染予防の啓発及び教育に関すること。 4. 感染に係る事故等の疫学調査及び事後措置に関すること。 5. 感染予防対策の評価及び改善に関すること。 6. 感染予防対策に係る情報の収集に関すること。 7. その他感染予防に関すること。 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・病院における発生状況の報告等の整備 ①・無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染サーベイランスを実施し、データ分析・評価し、感染予防対策の見直しや看護ケアの改善につなげる。 2. 院内感染情報レポートを活用し、職員への情報提供を行う。 3. 院内ラウンドを通して、感染防止技術に関する確認・指導を行う。 4. 感染予防対策に関する他施設との合同カンファレンス又は相互評価を実施し、感染防止技術等に関する情報交換を行い、感染予防対策の質の向上を図る。 	

(様式第6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・研修の主な内容： 1. 医薬品の安全使用のために 2. 処方箋作成、発行の厳格化について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・手順書の作成 (○有)・無) ・業務の主な内容： 1. 医薬品の採用・購入に関する事項 2. 医薬品の管理に関する事項 (麻薬等の管理方法等) 3. 患者の持参薬歴情報の収集方法 4. 処方箋の記載方法 5. 調剤方法及び監査方法 6. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 7. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 8. 他施設 (病院等、薬局等) との連携に関する事項	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・医薬品に係る情報の収集の整備 (○有)・無) ・その他の改善のための方策の主な内容： 1. メーカーからの連絡及び医薬品医療機器情報提供ホームページ等から情報収集している。 2. Web掲示板(病院サイボウズ)に掲載。薬事ニュースとして紙面配布。病院運営会議、連絡会議、セーフティマネージャー会議で報告。	

(様式第6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 97 回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>人工心肺装置、人工呼吸器、血液浄化装置または、新しい医療機器導入時に、①有効性・安全に関する事項②使用方法に関する事項③保守点検に関する事項④不具合等が発生した場合の対応⑤使用に関して特に法令上遵守すべき事項の研修を行っている。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・計画の作成 ○有・無</p> <p>・保守点検の主な内容：</p> <p>人工心肺装置等の日常点検は、使用者によるチェックリストに基づく使用前、使用中、使用後の点検を基本とする。更に、定期点検は使用部署若しくは医療機器管理センターで、機器の使用状況、程度に応じ、使用毎や年1回～4回程度の詳細点検を実施している。診療用高エネルギー放射線発生装置等の日常点検は、放射線部で実施し、定期点検は、一部の機器について、業者委託による定期部品交換を含む詳細点検を実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医療機器に係る情報の収集の整備 ○有・無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. メーカーや業者からの情報提供や関連学会、研究会等への出席や電子メールによる情報提供。2. 病院電子掲示板に電子化した添付文書等を掲載するほか、諸会議（医療安全管理委員会、セーフティマネージャー会議等）で周知している。更に、必要に応じて電子メールでも通知している。	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構、病院機能評価 (2013/11/27~28)	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 院内情報誌である「かわら版」を定期的に発行し、患者さんのみならず、関連する地域の関連病院等へ配布し、本院で実施している先進的な医療等の情報を常に発信している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 がん診療における緩和ケアチームや食事や栄養管理を通じて疾病の治療や予防に寄与する栄養サポートチームなどの体制を整備し、関係診療科等や薬剤部、並びに、看護部等との連携を図り、係る診療に対応できる体制を取っている。	

平成25年度プログラム参加医師名簿

参加年度	診療科名	コース名	医師名	性別	卒後 年数	医師免許 取得年	H25年度研修先
1 2011	第一内科	糖尿病トータルケア	岡部 圭介	男	6年	H20	富山大学附属病院
2 2010	第一内科	糖尿病トータルケア	和倉 健朗	男	6年	H20	富山大学附属病院
3 2011	第一内科	糖尿病トータルケア	藤坂 志帆	女	13年	H13	富山大学附属病院
4 2012	第一内科	糖尿病トータルケア	角 朝信	男	4年	H22	富山大学附属病院
5 2012	第一内科	糖尿病トータルケア	新村 里美	女	4年	H22	富山大学附属病院
6 2008	第一内科	糖尿病基礎研究大学院	瀧川 章子	女	9年	H17	富山大学附属病院
7 2008	第一内科	膠原病リウマチトータルケア	津田 玲奈 (旧姓:小川)	女	10年	H18	富山大学附属病院
8 2012	第一内科	膠原病リウマチトータルケア	小尾 麻衣子 (旧姓 奥村)	女	4年	H22	富山大学附属病院
9 2012	第一内科	膠原病リウマチトータルケア	山口 智史	男	4年	H22	富山大学附属病院
10 2008 2010	第一内科	内分泌・代謝統合	仙田 聡子	女	13年	H13	富山大学附属病院
11 2008	第一内科	呼吸器専門医、大学院	鈴木 健介	男	14年	H12	富山大学附属病院
12 2008 2010	第一内科	呼吸器専門医、大学院	猪又 峰彦	男	12年	H14	富山大学附属病院

13	2010	第一内科	呼吸器専門医、大学院	岡澤 成祐	男	10年	H16	富山大学附属病院
14	2008 2010	第一内科	呼吸器専門医、基本	山田 徹	男	17年	H9	富山大学附属病院
15	2009	第一内科	呼吸器専門医、基本	神原 健太	男	11年	H15	富山大学附属病院
16	2008	第一内科	呼吸器専門医、基本	高 千紘 (旧姓:松島)	女	9年	H17	富山大学附属病院
17	2008	第一内科	呼吸器専門医、基本	徳井 宏太郎	男	8年	H18	富山大学附属病院
18	2013	第一内科	膠原病リウマチー タルケア	松井 篤	男	3年	H23	富山大学附属病院
19	2010	第二内科	循環器総合研修コー ス	稲尾 杏子 (金沢医科大 卒)	女	7年	H19	富山大学附属病院
20	2010	第二内科	循環器総合研修コー ス	赤羽 崇	男	6年	H20	富山大学附属病院
21	2010	第二内科	循環器総合研修コー ス	福井 康貴	男	6年	H20	富山大学附属病院
22	2013	第二内科	循環器総合研修コー ス	辻野 泰	男	3年	H23	富山大学附属病院
23	2010	第二内科	腎・高血圧専門医育 成コース	滝 知彦 (東京医科大 大学卒)	男	7年	H19	富山大学附属病院
24	2010	第二内科	腎・高血圧専門医育 成コース	掛下 幸太	男	6年	H20	富山大学附属病院
25	2011	第二内科	腎・高血圧専門医育 成コース	志田 しのぶ	女	5年	H21	富山大学附属病院

26	2013	第二内科	腎・高血圧専門医育成コース	今井 祐子	女	3年	H23	富山大学附属病院
27	2010	第二内科	循環器総合研修コース	片岡 直也	男	7年	H19	富山大学附属病院
28	2010	第三内科	消化器総合研究コース	安藤 孝将	男	13年	H13	富山大学附属病院
29	2010	第三内科	消化器総合研究コース	三原 弘	男	12年	H14	富山大学附属病院
30	2010	第三内科	消化器総合研究コース	齊藤 聖子 (旧姓:吉田)	女	11年	H15	富山大学附属病院
31	2009	第三内科	消化器総合研究コース	植田 優子 (旧姓:板谷)	女	10年	H16	富山赤十字病院(4月~1月) 富山大学附属病院(2月~3月)
32	2009	第三内科	消化器総合研究コース	鈴木 庸弘	男	9年	H17	富山大学附属病院
33	2009	第三内科	消化器総合研究コース	南條 宗八	男	9年	H17	富山大学附属病院
34	2009	第三内科	腫瘍内科医養成コース	植田 亮	男	10年	H16	富山大学附属病院(4月~1月) 富山赤十字病院(2月~3月)
35	2009	第三内科	腫瘍内科医養成コース	中田 直克	男	8年	H18	富山大学附属病院
36	2009	第三内科	腫瘍内科医養成コース	吉田 啓紀	男	8年	H18	富山大学附属病院
37	2011	第三内科	腫瘍内科医養成コース	榎浦 新也	男	15年	H11	富山大学附属病院
38	2010	第三内科	血液総合研究コース	和田 暁法	男	11年	H15	富山大学附属病院

39	2009	第三内科	血液総合研究コース	在田 幸太郎	男	7年	H19	愛知県がんセンター(4月~10月) 富山大学附属病院(11月~3月)
40	2010	第三内科	消化器内視鏡専門 医養成コース	金 辰彦	男	12年	H14	富山大学附属病院(4月~12月) 富山労災病院(1月~3月)
41	2009	第三内科	消化器内視鏡専門 医養成コース	西水 俊准	男	7年	H19	済生会富山病院(4月~7月) 富山大学附属病院(8月~3月)
42	2013	第三内科	消化器総合研究コース	元尾伊織	男	3年	H23	富山大学附属病院(4月~12月) 糸魚川総合病院(1月~3月)
43	2013	第三内科	消化器総合研究コース	明石桃子 (旧姓:松下)	女	3年	H23	富山大学附属病院(4月~12月) 済生会富山病院(1月~3月)
44	2008	皮膚科	皮膚科専門医皮膚 外科コース	原 寛	男	10年	H16	富山大学附属病院(4月~9月) 新潟県厚生連上越総合病院(10月~3月)
45	2013	皮膚科	皮膚科専門医皮膚 外科コース	関 友里	女	3年	H23	富山大学附属病院
46	2013	皮膚科	皮膚科専門医皮膚 外科コース	村山 翔太郎	男	3年	H23	富山大学附属病院
47	2013	皮膚科	皮膚科専門医皮膚 外科コース	森 直哉	男	3年	H23	富山大学附属病院
48	2009	小児科	小児総合内科医養成 コース	小浦 詩	女	7年	H19	富山大学附属病院
49	2009	小児科	小児総合内科医養成 コース	渡辺 祐紀	男	7年	H19	富山大学附属病院
50	2010	小児科	小児総合内科医養成 コース	仲間 英幸	男	6年	H20	富山大学附属病院
51	2010	小児科	小児総合内科医養成 コース	堀江 貞志	男	6年	H20	富山大学附属病院
52	2010	小児科	小児総合内科医養成 コース	平岩 明子 (旧姓:杉)	女	6年	H20	富山大学附属病院
53	2012	小児科	小児総合内科医養成 コース	坂田 奈緒 (旧姓:沼)	女	4年	H22	富山大学附属病院
54	2013	小児科	小児総合内科医養成 コース	岡部 真子	女	3年	H23	富山大学附属病院
55	2008	神経精神科	海外留学研究コース	木戸 幹雄	男	8年	H18	富山大学附属病院
56	2008	神経精神科	学位取得研究コース	宮西 知広	男	8年	H18	富山大学附属病院(4月~9月) 谷野呉山病院(10月~3月)
57	2012	神経精神科	精神保険指定医・精神科 専門医を取得する最短3年 コース	山口 幸志	男	7年	H20	富山大学附属病院・医員 12/05/01- 富山大学附属病院-臨床研修医 10/04/01-12/3/31
58	2012	神経精神科	精神保険指定医・精神科 専門医を取得する最短3年 コース	藤岡 珠美	女	4年	H22	富山大学附属病院
59	2013	神経精神科	学位取得研究コース	中村 美保子	女	3年	H23	富山大学附属病院
60	2013	神経精神科	精神保険指定医・精神科 専門医を取得する最短3年 コース	嶋 有希子 (山口大学卒)	女	4年	H22	富山大学附属病院

61	2013	神経精神科	学位取得研究コース	笹林 大樹 (信州大学)	男	3年	H23	富山大学附属病院
62	2011	放射線科	放射線治療研究者養成コース	山岸 健太郎	男	8年	H18	富山大学附属病院(4月~9月) 富山県立中央病院(10月~3月)
63	2011	放射線科	放射線診断・IVR研究者養成コース	鳴戸 規人	男	5年	H21	富山大学附属病院
64	2012	放射線科	放射線治療研究者養成コース	池田 理栄 (島根医科大学卒)	女	5年	H21	富山大学附属病院
65	2011	第一外科	呼吸器外科専門医養成コース	峠 正義	男	12年	H14	富山大学附属病院
66	2011	第一外科	呼吸器外科専門医養成コース	坂田 公正	男	5年	H21	富山大学附属病院
67	2011	第一外科	心臓血管外科専門医養成コース	名倉 里織	女	11年	H15	富山大学附属病院
68	2009	第一外科	心臓血管外科専門医養成コース	青木 正哉	男	7年	H19	富山大学附属病院
69	2011	第一外科	心臓血管外科専門医養成コース	日隈 智憲	男	14年	H12	富山大学附属病院
70	2013	第一外科	心臓血管外科専門医養成コース	小尾 勇人	男	3年	H23	富山大学附属病院
71	2013	第一外科	心臓血管外科専門医養成コース	松尾 辰朗	男	13年	H13	明石医療センター(4月) 富山大学附属病院(5月~3月)
72	2008	第二外科	消化器外科専門医養成コース	渋谷 和人	男	13年	H13	富山大学附属病院
73	2008	第二外科	消化器外科専門医養成コース	橋本 伊佐也	男	13年	H13	富山大学附属病院
74	2008	第二外科	消化器外科専門医養成コース	神山 公希	男	13年	H13	富山大学附属病院
75	2008	第二外科	消化器外科専門医養成コース	大澤 宗士	男	11年	H15	富山大学附属病院
76	2008	第二外科	消化器外科専門医養成コース	大村 哲也	男	10年	H16	富山大学附属病院(4月~9月) 飛騨市民病院(10月~3月)
77	2008	第二外科	消化器外科専門医養成コース	森山 亮仁	男	10年	H16	富山大学附属病院
78	2008	第二外科	消化器外科専門医養成コース	山口 哲司	男	10年	H16	富山大学附属病院
79	2010	第二外科	消化器外科専門医養成・大学院コース	平野 勝久	男	6年	H20	富山大学附属病院
80	2010	第二外科	消化器外科専門医養成・大学院コース	渡辺 徹	男	6年	H20	富山大学附属病院
81	2013	脳神経外科	脳神経外科専門医養成コース	谷 真理子	女	7年	H19	富山大学附属病院(4月~9月)
82	2013	脳神経外科	脳神経外科専門医養成コース	高 正圭	男	6年	H20	富山大学附属病院
83	2011	整形外科	スポーツ外科疾患のマネジメントを修得するコース	牧野 敏士	男	5年	H21	富山大学附属病院
84	2013	整形外科	スポーツ外科疾患のマネジメントを修得するコース	大西 慎太郎	男	3年	H23	富山大学附属病院(4月~9月) 黒部市民病院(10月~3月)
85	2013	整形外科	スポーツ外科疾患のマネジメントを修得するコース	二川 隼人	男	3年	H23	富山大学附属病院
86	2013	整形外科	スポーツ外科疾患のマネジメントを修得するコース	渡邊 健太	男	7年	H19	富山大学附属病院
87	2012	整形外科	スポーツ外科疾患のマネジメントを修得するコース	峯 隼人	男	6年	H20	富山大学附属病院
88	2009	産科婦人科	産科婦人科周産期コース2	鮫島 梓	女	7年	H19	富山大学附属病院
89	2009	産科婦人科	産科婦人科周産期コース2	福田 香織	女	7年	H19	富山大学附属病院
90	2010	産科婦人科	産科婦人科周産期コース2	津田 さやか (旧姓:中)	女	6年	H20	富山大学附属病院(4月~9月)
91	2011	産科婦人科	産科婦人科周産期コース2	伊東 雅美	女	5年	H21	富山大学附属病院
92	2011	産科婦人科	産科婦人科周産期コース2	小野 洋輔	男	5年	H21	富山大学附属病院
93	2011	産科婦人科	産科婦人科周産期コース2	竹村 京子	女	5年	H21	富山大学附属病院

94	2012	産科婦人科	産科婦人科周産期 コース2	稲田 貢三 子	女	11年	H15	富山大学附属病院
95	2012	産科婦人科	産科婦人科周産期 コース2	米澤 理可	女	11年	H15	富山大学附属病院
96	2012	産科婦人科	産科婦人科周産期 コース2	草間 妙	女	4年	H22	富山大学附属病院
97	2013	産科婦人科	産科婦人科周産期 コース2	副田 翔	男	4年	H23	富山大学附属病院
98	2008	眼科	眼科全般コース	武田 祥子 (旧姓:山)	女	9年	H17	富山大学附属病院
99	2008	眼科	眼科全般コース	宮腰 晃央	男	7年	H19	富山大学附属病院
100	2010	眼科	眼科全般コース	藤田 和也	男	6年	H20	富山大学附属病院
101	2010	眼科	眼科全般コース	中村 友子	女	6年	H20	富山大学附属病院
102	2012	眼科	眼科全般コース(仮)	尾崎 弘典	男	4年	H22	富山大学附属病院
103	2010	耳鼻咽喉科	めまい大学院コース	西田 悠	男	10年	H16	富山大学附属病院
104	2010	耳鼻咽喉科	めまい専門医養成 コース	館野 宏彦	男	6年	H20	富山大学附属病院
105	2012	耳鼻咽喉科	めまい専門医養成 コース	中西 亮人	男	4年	H22	富山大学附属病院(4月~7月) 富山赤十字病院(8月~12月)
106	2010	耳鼻咽喉科	頭頸部腫瘍専門医 養成コース	阿部 秀晴	男	8年	H18	富山大学附属病院
107	2013	耳鼻咽喉科	頭頸部腫瘍専門医 養成コース	中里 瑛	男	3年	H23	富山大学附属病院
108	2008	麻酔科	麻酔科専門医・スペ シャリストコース	本田 康子 (旧姓:岩)	女	8年	H18	富山県立中央病院(4月~6月) 富山大学附属病院(7月~3月)
109	2009	麻酔科	麻酔科専門医・スペ シャリストコース	伊東 久勝	男	7年	H19	富山大学附属病院
110	2011	麻酔科	麻酔科専門医・スペ シャリストコース	服部 瑞樹	男	5年	H21	富山大学附属病院
111	2012	麻酔科	麻酔科専門医・スペ シャリストコース	黒田 康子	女	8年	H18	富山大学附属病院
112	2013	麻酔科	麻酔科専門医・スペ シャリストコース	五十嵐 太 郎	男	3年	H23	富山大学附属病院(4月~12 月)
113	2013	麻酔科	麻酔科専門医・スペ シャリストコース	久保田 亮 平	男	3年	H23	富山大学附属病院
114	2013	麻酔科	麻酔科専門医・スペ シャリストコース	清水 美彩 子(旧)	女	3年	H23	富山大学附属病院(4月~10 月)
115	2008	麻酔科	麻酔科専門医・地域 密着コース	南條 和美 (旧姓:矢)	女	9年	H17	富山大学附属病院
116	2009	麻酔科	麻酔科専門医・地域 密着コース	青木 絵梨 子	女	7年	H19	富山大学附属病院
117	2008	和漢診療科	漢方内科専門研修 (地域医療)および漢 方 医学研究医育成コー ス	渡り 英俊	男	9年	H17	富山大学附属病院
118	2008	和漢診療科	漢方内科専門研修 (地域医療)および漢 方 医学研究医育成コー ス	海老澤 茂	男	9年	H17	富山大学附属病院
119	2009	和漢診療科	漢方内科専門研修 (地域医療)および漢 方 医学研究医育成コー ス	北原 英幸	男	7年	H19	富山大学附属病院
120	2009	和漢診療科	漢方内科専門研修 (地域医療)および漢 方 医学研究医育成コー ス	三澤 広貴	男	7年	H19	富山大学附属病院
121	2010	和漢診療科	漢方専門研修および 総合内科医育成コー ス	荒井 紗由 梨	女	6年	H20	富山大学附属病院
122	2009	神経内科	関連病院連携コース	小西 宏史	男	7年	H19	富山大学附属病院
123	2010	神経内科	関連病院連携コース	吉田 幸司	男	6年	H20	富山大学附属病院
124	2012	神経内科	関連病院連携コース	林 智宏	男	4年	H22	富山大学附属病院
125	2012	神経内科	関連病院連携コース	山本 真守	男	4年	H22	富山大学附属病院

126	2009	総合診療部	A-2b アカデミック総合診療医 コース (病院総合研修→家 庭医療研修)	小浦 友行	男	9年	H17	富山大学附属病院
127	2009	総合診療部	A-3b アカデミック総合診療医 コース (病院総合研修→家 庭医療研修)	三浦 太郎	男	8年	H18	富山大学附属病院
128	2009	総合診療部	B-1b コミュニティー総合診療医 コース (病院総合研修→家 庭医療研修)	黒岩 麻衣 子	女	9年	H17	富山大学附属病院
129	2009	総合診療部	B-2 コミュニティ家 庭医コース	中垣内 浩 子	女	8年	H18	富山大学附属病院
130	2011	病理部	病理専門医育成コー ス (診断病理医トータ ルコース)	中嶋 隆彦	男	14年	H12	富山大学附属病院
131	2009	病理部	病理専門医育成コー ス (診断病理医トータ ルコース)	濱島 丈	男	9年	H17	富山大学附属病院